

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220501	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	環境法の参加原則に係る評価指標 の検討－環境民主主義の確立に向 けた国際連携構築	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	伊達 規子 (大久保 規子) (大阪大学・法学研究科・教 授)

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

環境問題については、国際的な協調と枠組み設計が不可欠である。参加原則という視点からの国際的な指標作成は、その枠組み設計として興味深いものであり、国際的な実践や研究の追跡も順調になされている。しかし、それぞれの国ごとに異なる事情の中で、参加原則の実践の在り方を統一した基準で評価するという観点からの、より詳細かつ実践的な研究は未だ行われていない。日本についても提起主体となる存在が脆弱であり、司法へのアクセスに困難があることなどの対策について、より積極的な提言につながる分析が望まれる。残された研究期間で充実した成果を上げることを期待する。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対して、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	参加原則に係る国際的な指標作成を行うなどの研究成果は認められたものの、日本の参加法制全体の改善に資する提言に繋がる分析が十分になされているとまでは言いがたい。アジアにおける参加が形式的な要素が強いという問題をクリアする一層の実践的な提言を望む。